

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人 人づくり 街づくり 環境づくり		
代表者	理事長 高木 晋 スム	担当者	担当者 小林 義幸
所在地	〒285-0862 千葉県佐倉市新臼井田 28-1 TEL:043-461-6585 FAX:043-461-6585 ケタイ 090-4545-5509 E-mail: a.blue.comm.planet@onyx.ocn.ne.jp		
設立の経緯 ／沿革	(1)当初①(A)印旛沼の浄化(水道水取水源として不名誉な我が国一の汚染度の) (B)引きこもりの基 児童の児童期の仲間、戸外自然遊びの実現。(C)地域経済振興と街づくりを ②定年層の実社会で培った 地域で貴重な知識、体験等の地域還元を図る 市民の地域貢献活動を誘発する 地域起爆剤的モデル事業の実践から始まり (2)現在下記の(D)～(G)活動迄に取組みは広がっている。		
団体の目的 ／事業概要	(1)目的:永年の不景気 1 昨年の米金融破綻に伴う 地場経済の構造的低迷と閉塞感漂う地場経済の再生、振興を老人を核とする市民の力の結集で提唱。 (2)事業概要:上記(A)～(C)に加え (D) 放棄、荒廃水田の復元、保全 (E) 地域温暖化 雨水の地下浸透、涵養観点の上総掘りの実践 (F) 都市再生、街づくり、地場産業、地域雇用の創出 (G) 市民が憩い、学ぶ自然、環境公園の提唱と モデル公園の造成、実現。		
活動・事業実績 (企業の場合は環境に関する実績を記入)	(A)印旛沼の浄化提唱活動:2ヶ所に浄化再生装置を設け 実験と提唱。 (B)小学生と幼児の 2種の自然遊びの実施。小学生年20回 200名参加 (C)街づくり、地場経済振興の策定委員会応募論文 2種提案したが意図的に落とされている。 (D)①放棄田復元、維持運動は 3年目を迎える。②今般自治体の市民の農業協働と振興案公募に応募し 市民参加の農業振興を提唱中。 (E)伝統工法継承と 雨水の地下浸透、涵養も意図する上総掘りの実施 (F)前項(C)で街づくり振興活動もするも 意図的に委員会から排除される (G)上記(F)構想の一つとして ①(B)の外遊び提唱活動「もう一つのがっこう」運動と ②自然、環境公園化を提唱し 私設モデル公園の造成		
ホームページ	Http://tatsunokomura.blog25.5c2.com		
設立年月	1999年 2月 *認証年月日(法人団体のみ) 2005年 12月 26日		
資本金/基本財産	0円	活動事業費/売上高(H20)	2,185,000円
組 織	スタッフ/職員数 3名(内専従 1名)		
	個人会員 160名	法人会員 0名	その他会員(賛助会員等) 2名

政策のテーマ 地元印旛沼の浄化から始める 地域水循環、浄化、生物多様性向上運動

■政策の分野

・ ① ② ④ ⑤ ⑥ ⑨ ⑩ ⑭

・

■政策の手段

・ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩ ・

■キーワード	温故知新	自然浄化作用活用	水の地域循環	コミュニティビジネス	地場産業創出
--------	------	----------	--------	------------	--------

団体名：特定非営利活動法人

人づくり 街づくり 環境づくり

担当者名： 高木 晋

① 政策の目的

- (1)世界共通の水汚染問題を 無動力、無燃料の嘗ての水道製造方式で 安価にコミュニティビジネス創業、地域雇用創出型の事業化で 自治体宛て「売水」形式を採り 市民力で実現する。
- (2)最終目的は ①地域の水循環システムの構築と ②地域高度水処理クラスターの構築である。
- (3)また資金力の不足している後進国に対しても 市民交流、現地自立型の国際協力を図る。

② 背景および現状の問題点

- (1)当地は都心通勤者ベッドタウンとして無秩序な開発で 貴重な水資源の印旛沼を汚水の放流先として汚し（不名誉な我が国一の汚染度）一方水道水原水源として活用して 且つその上
- (2)①京葉工業地帯の工業用水供給のため土手を嵩上げで水量を増し ②地元工業団地の無秩序な地下水汲上げ ③封鎖沼故のヘドロの濃縮、増量は ④沼内湧水の力を削ぎ 水草 在来魚を駆逐し
- (3)当事者＝県は 人口半減 農業終業 工場閉鎖の2030年の浄化を目指し?無為無策の儘である

③ 政策の概要

- (1)当印旛沼は霞ヶ浦 琵琶湖と異なり水深が浅く 水量が少ないので 嘗ての水道水製造方式の「*緩速濾過」方式で 砂、砂利に棲息する 細菌、バクテリア、水中昆虫幼虫等が 汚れを捕食する 動力、燃料不要の自然のメカニズム「*谷川の伏流水」作用の適用で十分浄化出来る。昨年暮れの
- (2)弊会装置の採取水質計測で BOD 0.7mg/ℓ 迄 水道水評価 1級 AA基準迄浄化し得た。
- (3)此のシステムの特徴は 汚水汲上げ以外は 動力を不要とし従って燃料が不要で 現行唯一解決策で左程効果が上がらず 膨大な経費の掛かる「曝気法」への優位性策は 明らかであるし 装置製作も単純で 市民レベルの製作で事足り 下記理由でコミュニティビジネスとなり得ると思う。
- (4)資金的に 自治体上下水道局に 中水状態で納め 製造コストを吸収する「売電」ならぬ「売水」方式が財政逼迫の現在一番現実性がある。（唯当面納入輸送管のある処に浄化場は限られるが）
- (5)当提案の本来の目標は ①下水網の行き亘らぬ直接放流水の法規制を含めた「高度浄化槽」と組合わせた集合浄化による 現下水ネットワークに付加する 経費の掛からぬ「並列型」浄化ネットワークの付加構築であり ②農業排水、調整池の浄化を加えた「地域水循環活用」にある。更に引込んだ水に混じるドジョウ タニシ等養殖業で 農業の副収入化の地場産業創業、活性化でもある。
- (6)汚染問題に悩む市民レベルの国際浄化協力と此れを支える地元高度産業クラスター の構築もある。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

(1) 汚水の排出種別毎の実証実験と*浄化手法の研究

①*実験装置製作、設置と 運用保守管理の経費の獲得と 実証実験実施

(A) 印旛沼汚水浄化（現在の成田・甚兵衛地区より 臼井地区への移設）

(B) 農業排水の浄化（現在建設予定の酒々井の農業排水路）

(C) 家庭直接放流箇所の浄化（郊外農村地区）

②*実権装置の浄化種別毎の工夫

(2) 下記全体システム構築と グランドデザイン化、導入の予算化と 実施の仕組みづくり

(3) 実施主体の検討

（農業排水システム）

（直接放流家庭）

（印旛沼）

PC 操作技術無く図表化出来ません。

⑤政策の実施主体（提携・協力主体があればお書き下さい）

主体：弊会「人づくり 街づくり 環境づくり」

・総指揮担当

高木

・設計担当

小林、日笠

・システム設計、制御機器考案担当

池内、古谷

・工事担当

朝比奈、小林、日笠

・渉外

高木、

升崎・理論構成

吉田

PC操作技術が無く 全てを旨く御せません。 済みません。

⑥政策の実施により期待される効果（具体的に書きください）

(1) 嘗ての安全な水道製造技術として 1990 年代からまた欧米先進都市で復活した この方式は 浄化度が高く 安全で施設製造も単純、安価故コミュニティビジネスに成り易く 従って印旛沼浄化方式に打って付けである。

(2) 特に汚水吸上げ時以外は ①高価な燃料を必要とする ②動力部が不要で浄化コストは殆ど掛からず ③装置も単純で市民技術で 製造可能となり コミュニティビジネス化が可能である。

(3) 面白いことに揚水と共に流入するドジョウ タニシ モロコ 川エビ等の稚魚介類が 汚れと夏場湧いて出る藻と 藻に住み付くミジンコを食べ 餌遣り不要で育つので 農家の副業として淡水養殖業が成り立ち得る。 アユの好物のメロシラ藻も魚の高級餌となるであろう。

(4) 沼周辺の田んぼを借上げ 印旛沼浄化と 淡水魚介類養殖の農家の新しい副業化が立上らう。

⑦その他。特記事項

- (1)上欄の進展により ①浄化の新事業創業化が可能となり 将来は自治体の下水道処理の受託も可能となろう。(嘗ての宮城県三春町の例では 人件費削減 1/10 全体経費は 1/5 となり 此の浮いた経費の一部で 更なる印旛沼浄化 地域水循環型地域が招来されよう。)
- (2)従来污水处理から漏れていた ①市外、遠隔地の民家の直接放流 ②農業廃水 ③工場や施設の排水 ④調整池の浄化と その Network 化浄化が促進されるだろう。
- (3)地域の水循環志向の高まりで 水田の冬期湛水が増え 湧水の涵養等で ①湿地の保全 ⑦印旛沼の水草の繁茂で 渡り鳥の越冬も可能となり また谷津田等での生物多様性が促進されよう。
嘗ては極東最大の飛来地であったが(利根川から印旛沼迄の) 渡り鳥の飛来が汚染故途絶えた印旛沼は ロシア 中国の棲息地の劣化により生存が脅かされている渡り鳥の 飛来,保護地として国際環境面の我が国の貢献となろう。
- (4)地域の水処理企業が集まり出し 徐々に協業も行い 技術の高度化に伴い 水処理の高度技術 Clusterを構築し 国際的企業の輩出が見られ 此处佐倉市に地場産業が育ち 雇用の創出も可能となろう。
- (5)今世紀末に予想される水不足(地域水循環で) 汚染で汚れに汚れた貧しい地域の水の浄化に 市民レベルで交流の浄化協力が実現可能である。 弊会の「上総掘り」(地下水の汲上げと合わせて。)
- (注)沼の底質ヘドロは 以上とは別処理になり 廃油でヘドロをレンガに焼結し(どの自治体も失敗しているので 販売は行わず) 市民に無料で配り 街頭装飾の街美化、街づくりに利用するのが賢明であると思っている。